

第35回技術研究発表会 梗概 < I 論文 >

B.情報・交通

【HP 掲載No. B04】

発表No.	B02
タイトル	新たなモビリティ導入時の住民の行動・意識の変容に関する分析 一日高市こま武蔵台地区を対象とした長期実証実験よりー
所属・名前	国土交通省 国土技術政策総合研究所 益子 慎太郎 新階 寛恭 石井 儀光 復建調査設計株式会社 吉野 大介 李 美沙 大橋 慶佑 株式会社サーベイリサーチセンター 稲葉 亮輔
キーワード	① 都市の持続可能性 ② 郊外住宅市街地 ③ グリーンスローモビリティ
<p>高度成長期以降に計画開発された郊外住宅市街地は、経年に伴いオールドタウン化が進行しており、高齢化等により自律的に移動することに困難を伴う住民が増えている。</p> <p>本研究は、このような郊外住宅市街地の実情を背景として、都市の再編・集約化に資する郊外住宅市街地の再生に不可欠な交通サービスの確保を目的とし、より社会実装時に近い条件でデータ等の収集を行うために電動小型カートを活用した実証実験を3か年に渡って実施した</p> <p>本論文では、新たなモビリティの導入は地域特性によって有用性に大小があるものの郊外住宅市街地においては一定程度効果的であることを前提としたうえで、社会実装時の地域の持続可能性やウェルビーイング向上といった付加価値等がどのように発現するかを明らかにする。そのため、「移動のしやすさ」や「コミュニケーションの発生」等の観点に着目し、地域住民の行動や意識の長期実験による経年変化を、年齢や運転免許保有状況等の属性も考慮しつつ分析した。</p>	